

FAO実施事業：新規プロジェクト開始式典

2018年4月16日、日本の支援を受けて、多数のシリア難民が流入するヨルダン北部において国際連合食糧農業機関（Food and Agriculture Organization of the United Nations：FAO）が実施するシリア難民及び脆弱なヨルダン人に対する小規模農業食品企業の設立支援を通じた食糧安全保障の向上及び生計支援を目的とした新規プロジェクト（100万ドル）の開始式典が開催され、柳大使、ナサルディーンFAOヨルダン事務所代表、ハダッド・ヨルダン国農業研究普及センター長他、約50名が出席しました。

本プロジェクトにおいては、ヨルダン北部においてシリア難民及び脆弱なヨルダン人に対する支援活動を実施する「日本国際民間協力会（NICCO）」がFAOの実施パートナーとして活動します。

開始式典では、ナサルディーンFAOヨルダン事務所代表からは、日本の支援に対する感謝の意が表明された他、ホストコミュニティに居住するシリア難民及び脆弱なヨルダン人を対象とした本件の実施によって、顕在化しつつあるシリア難民とヨルダン人の間の軋轢の解消に貢献したいとの発言がありました。

柳大使は、シリア難民にかかるヨルダン政府及び国民の対応を評価していると述べると共に、日本は緊急人道支援に加え、難民の自立や受入国の経済発展を支える開発支援を並行して進める「人道と開発の連携」アプローチを推進しており、本プロジェクトによりシリア難民の自立が促進されるだけでなく、ヨルダン北部における農業開発に繋がることを期待する、また、日本国際民間協力会と連携して行われることを評価していると述べました。

式典会場の様子



式典での柳大使による挨拶



FAOによるプレゼンテーション

